不知火物語

第貳十壹編

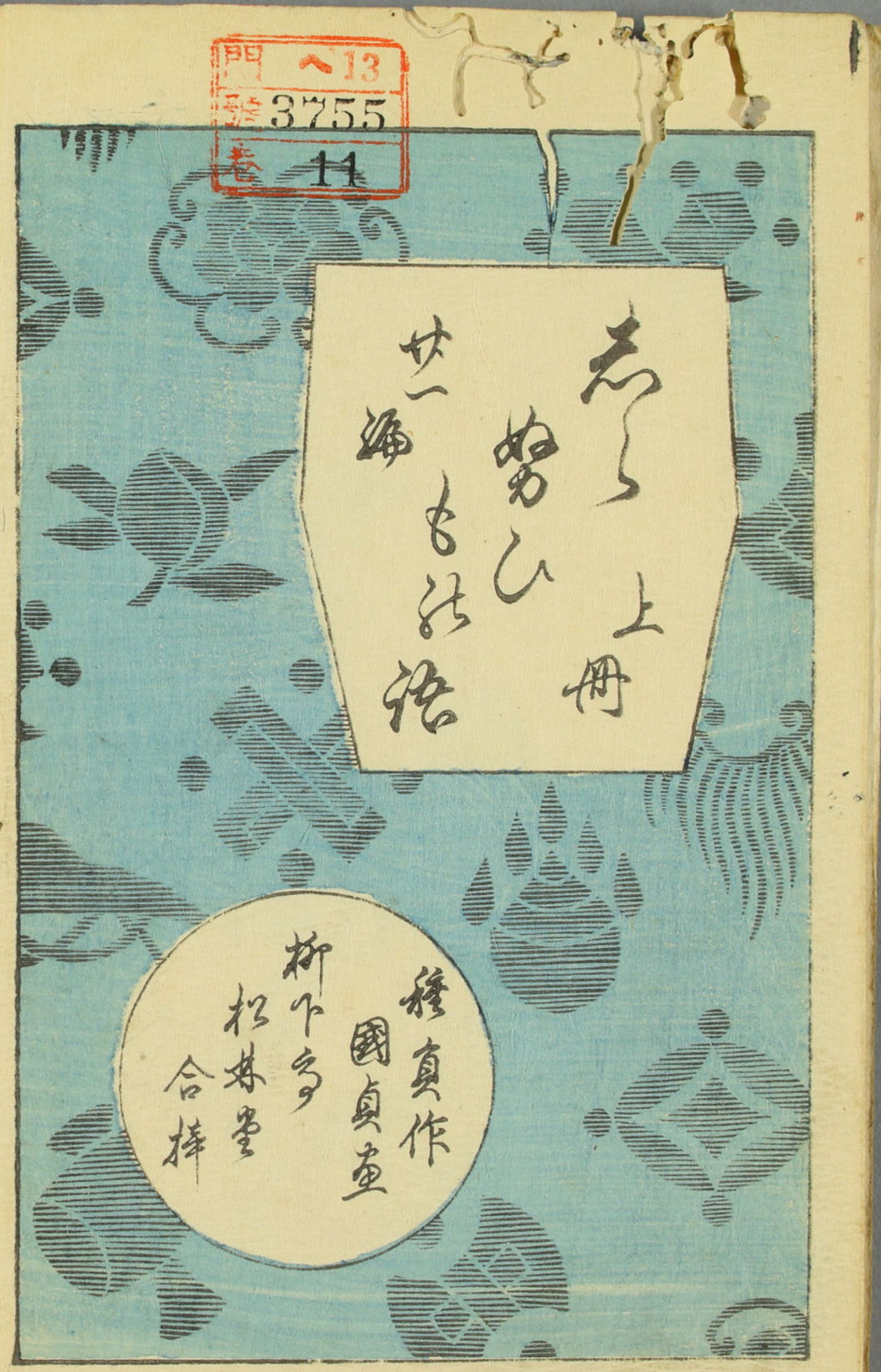
柳亭著作

棋蝶樓圖畫

Gôkan:(No. 013
Shiranui Monog
Part 3. Book 2
へ13
3755
11

二十編上
外題曲亭馬琴

門へ13
3755
巻 11

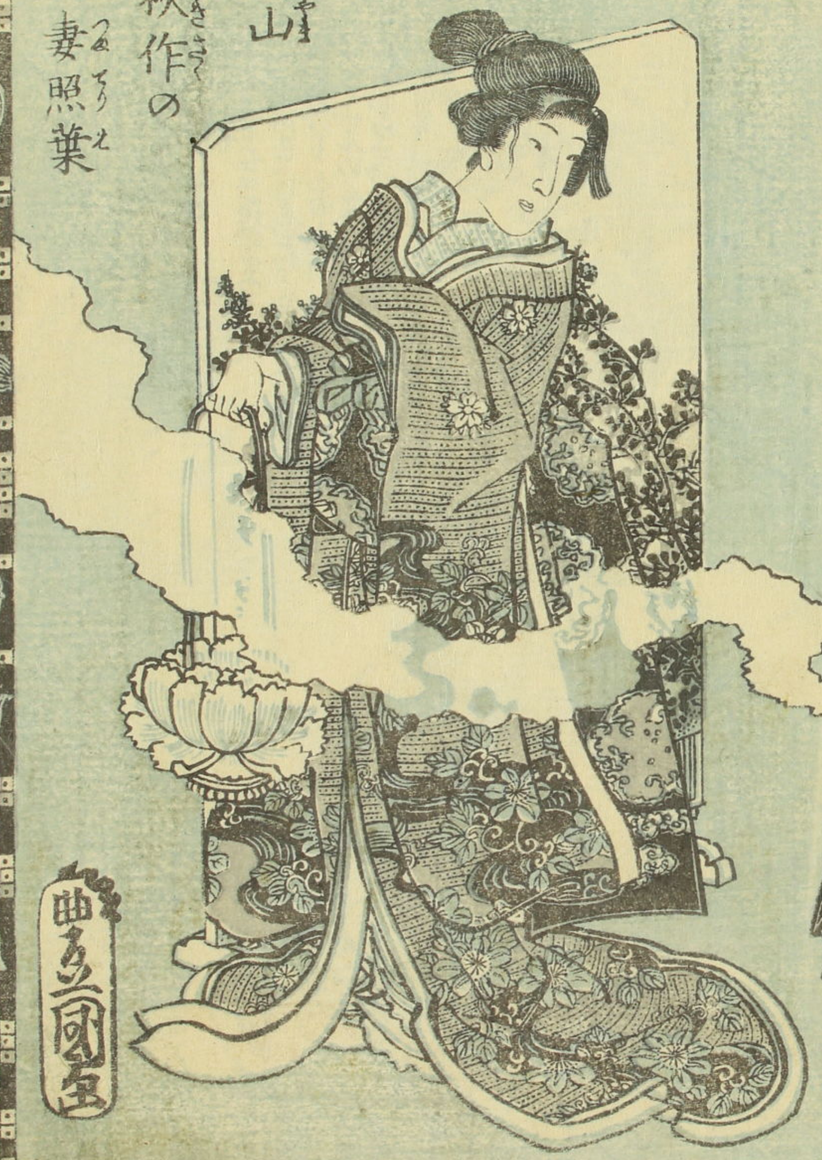


善惡若無報乾坤必有私〻〻部康節ガ金言〻〻其来所〻〻
遲速ありとも豈返報の非べけんや此白縫譚等初集下
巻ノ冒頭ニ行生郷の段ニ説黑闇於牛ガ黄金を得ん爲姉を害し
て西國ニ奔り彼地にも復主人を殺して家を奪事を致されど
も高運ニ乘て〻〻幸福倍身ニ溢て巨萬の財宝を積
ニ至り斯て〻〻報の無ニ似れど免るゝ吏なこそ禍福ハ縷繩の如し
と常言ニ〻〻その繩以西婆ハ牛ガ鼻頭を串廻る因果の車を牽せて
善惡の報あるを佳兒達ニ覧呈べ〻其ハ後編博多の中島獨
鈍屋の別莊の條下ニ若菜姫ガ爲業を〻〻知玉へ〻〻

安政丙辰肇歳 (明六) 柳下亭種員記

村咥真平の女房小磯
剃髪して
清光尼

鳥山
秋作の
妻照葉

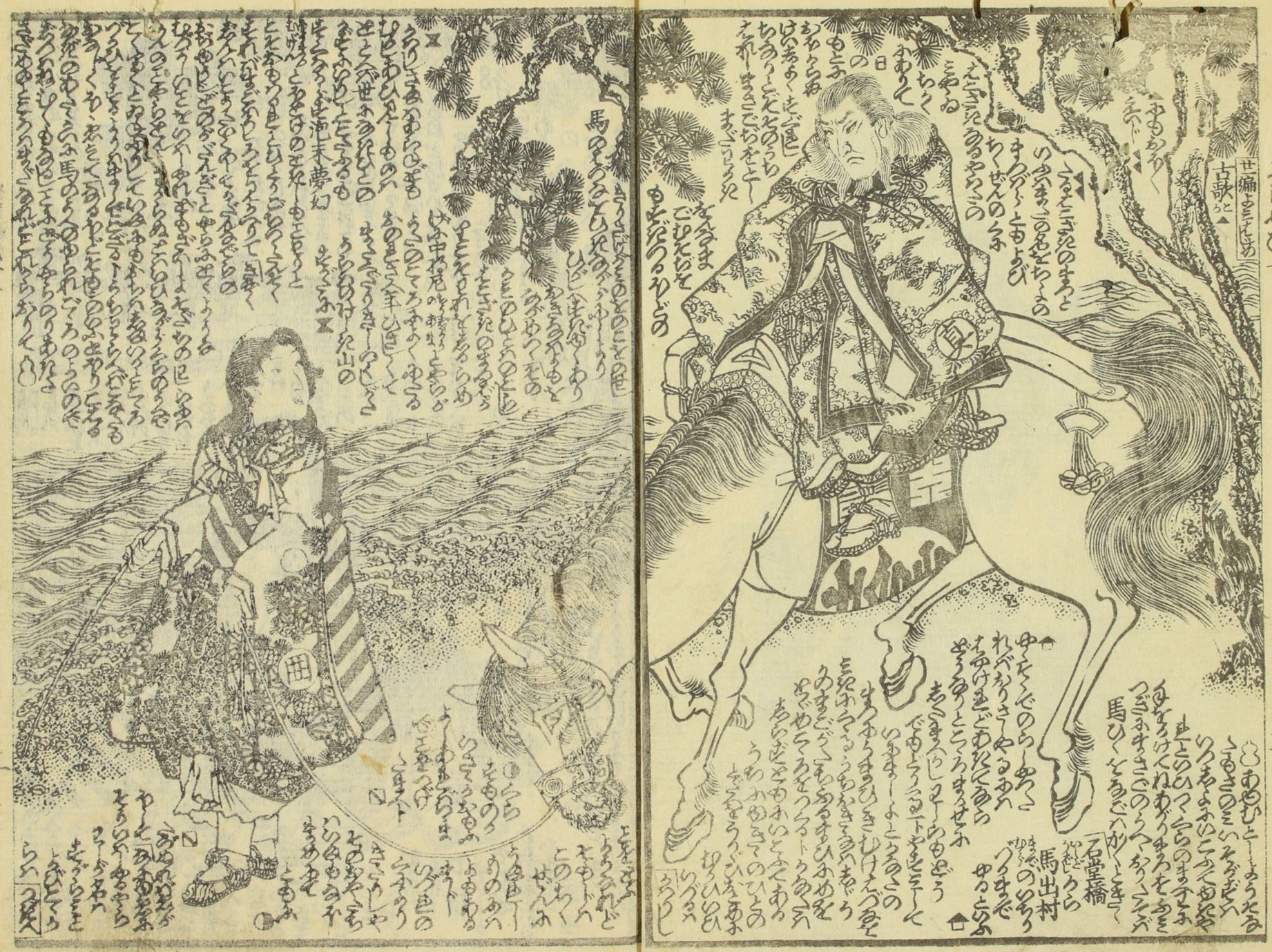


世編太平記

古歌と

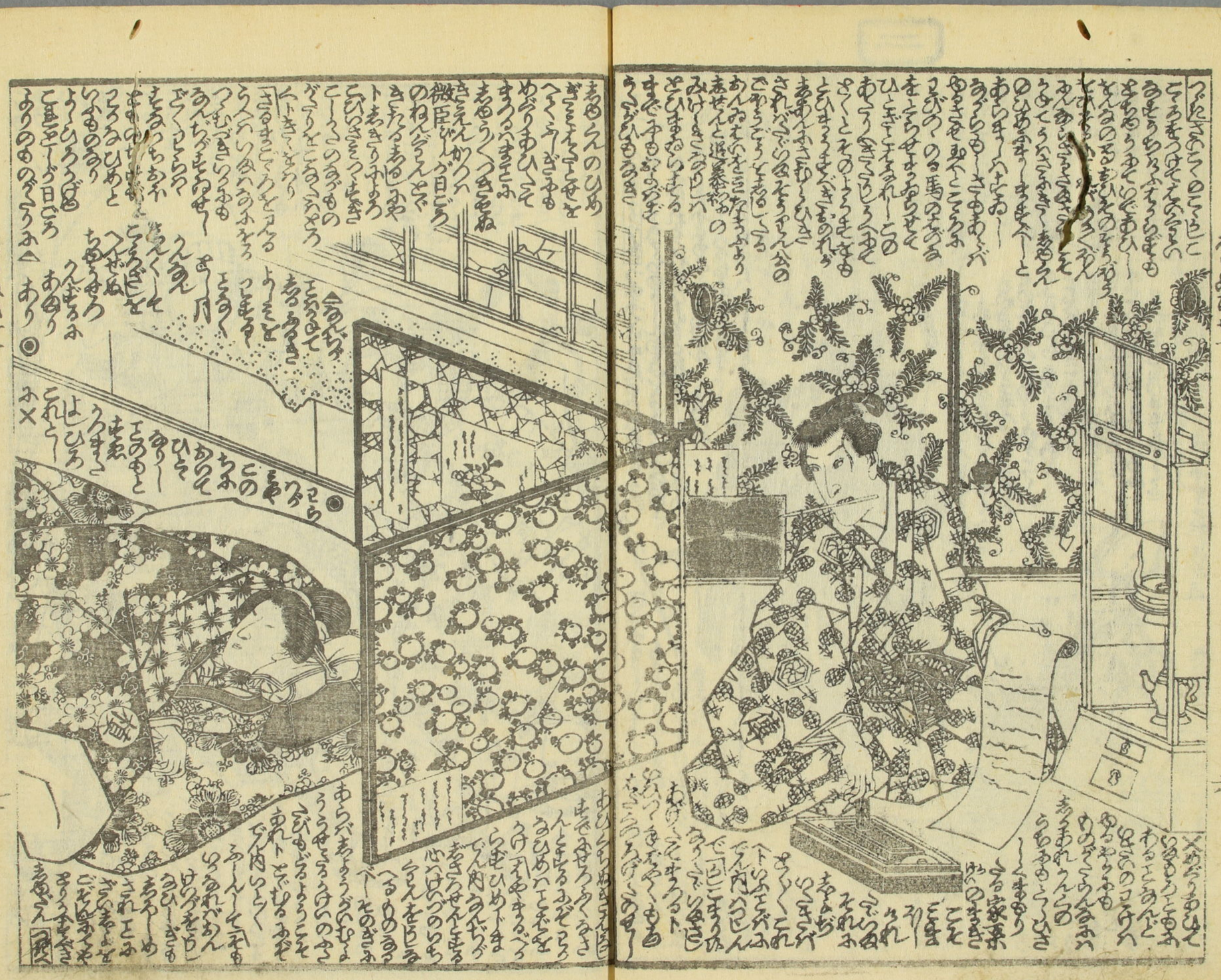
石堂橋

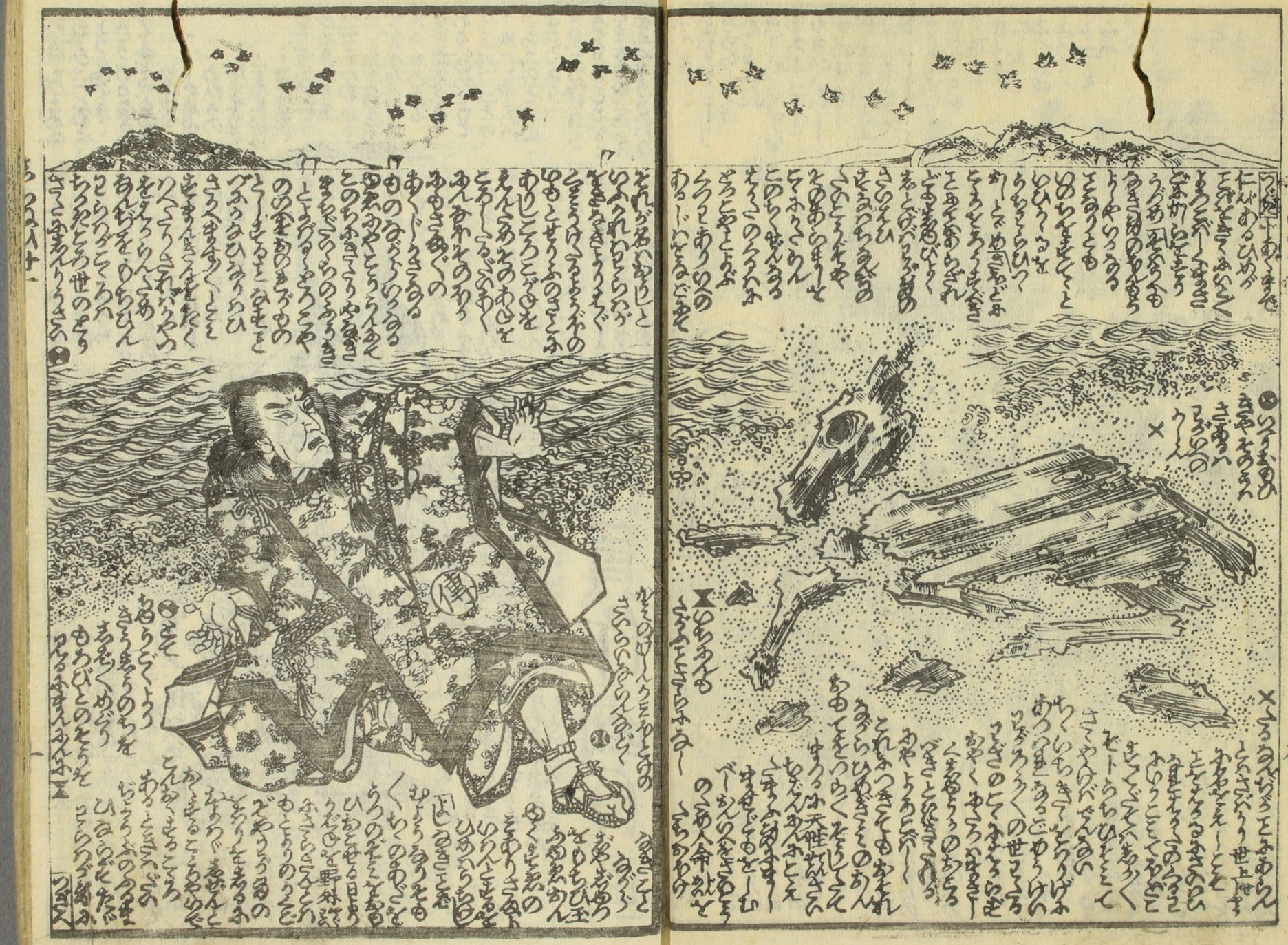
馬出村



若

傳





安政二年乙卯歳新著書目

假名
妙古　紙草紙　乙編　富士見物　初春出版　柳下亭種員作　雅齋國輝画

右冊子の表紙見物様方新意ふ作者画後編のもくひ出版

慶應六　童謡妙々車　初編　三編　同時出板　柳下亭種員作　奇蝶楼國貞画

題へ作者種員来の腹稿ふ成て最古昔より唄ふうたのうち車と手ふ挽てうたふ童謡ふ本題著無類ふ面白き因果のおかしみ尤製本そるふ手ふ成る事ふ於て上奉り

禁仕壽生肌膏　板元　紅英堂壽吉

金瘡即効　奇功紙　製造所　新吉原　仲之町　下　柳　楼

地太草紙問屋　通　浅草　油　今戸町　藤岡屋慶治郎　柳下亭

二十一編下

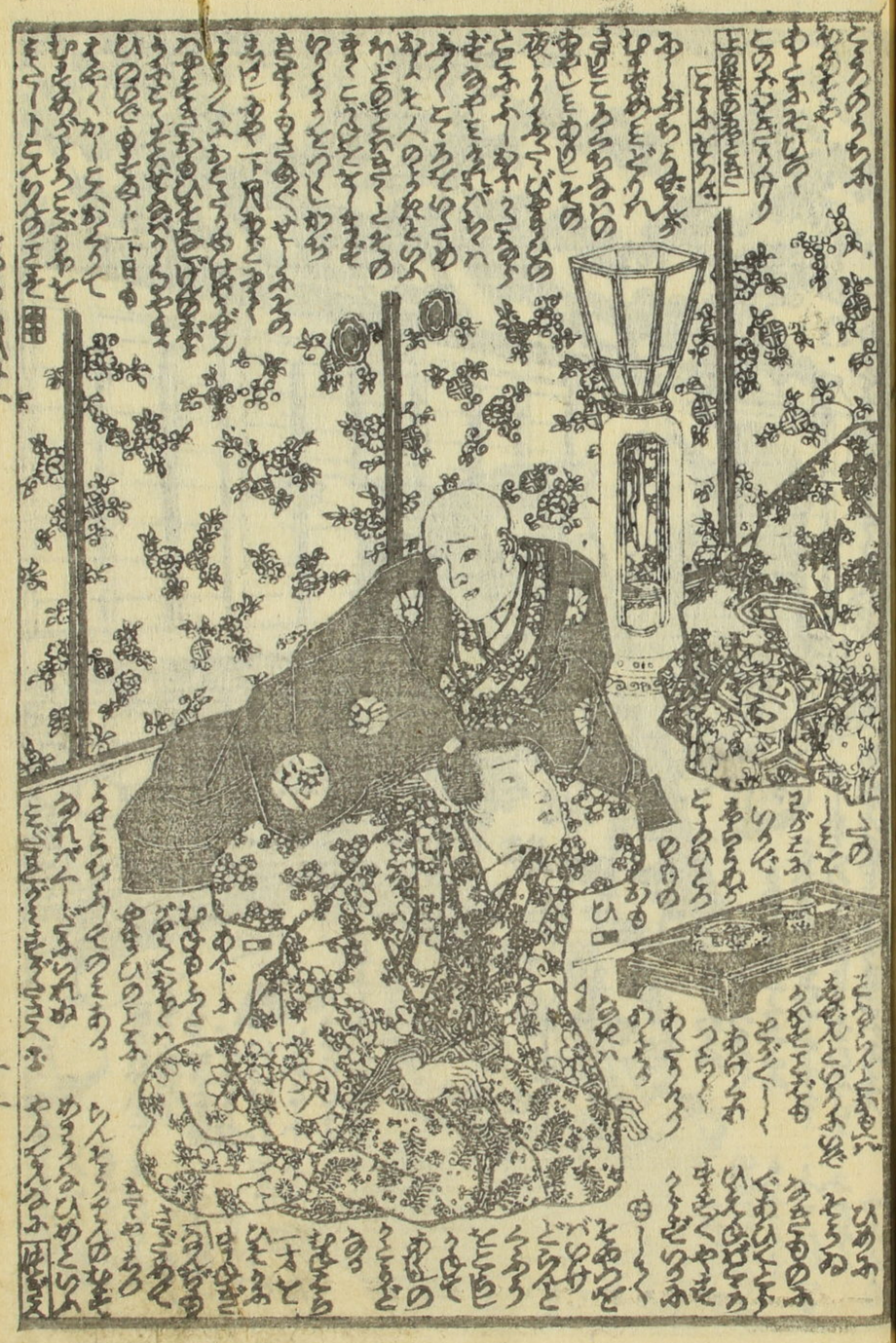
白縫譚廿一編下冊

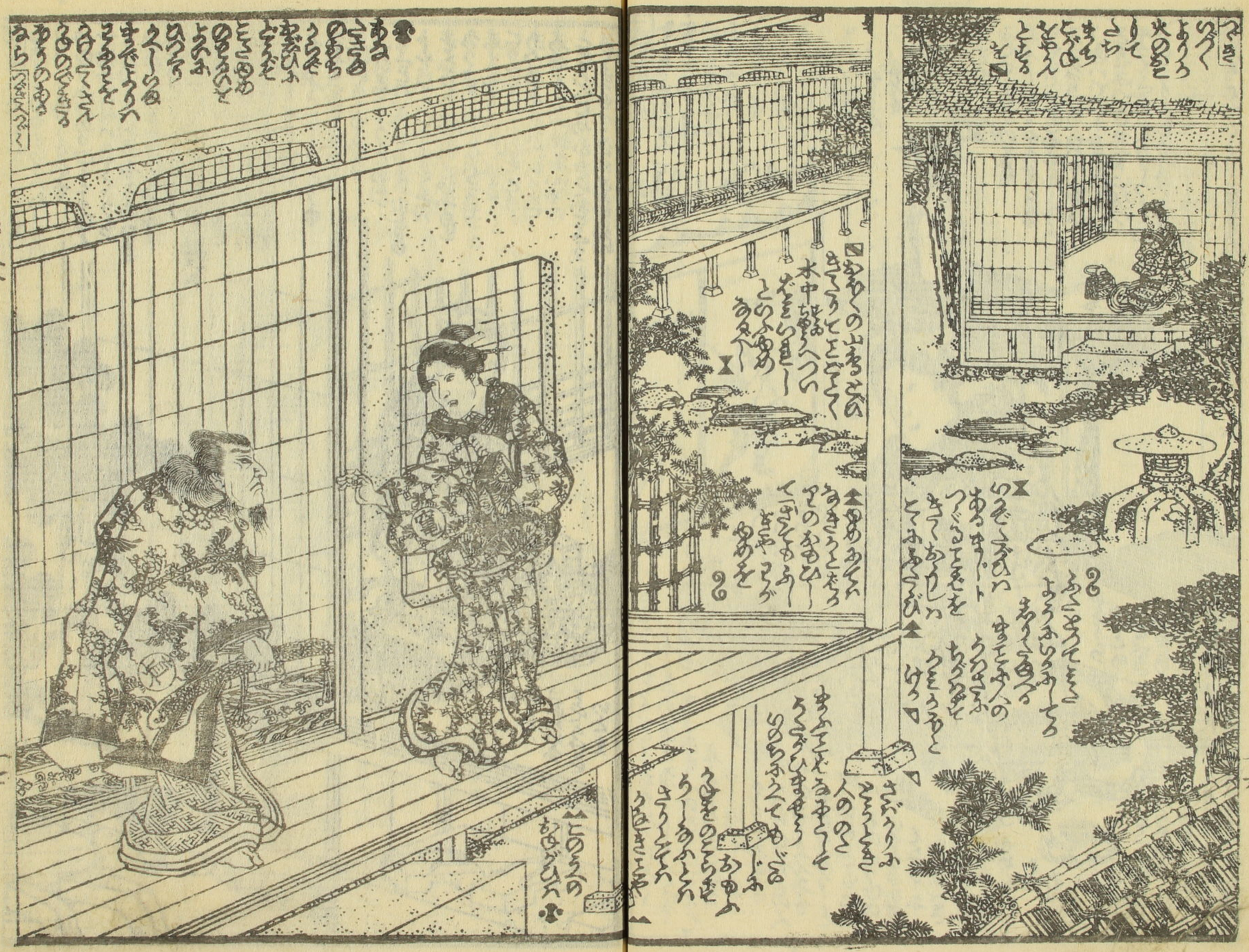
種員作　國貞画

栁下松林合梓

乙卯開春

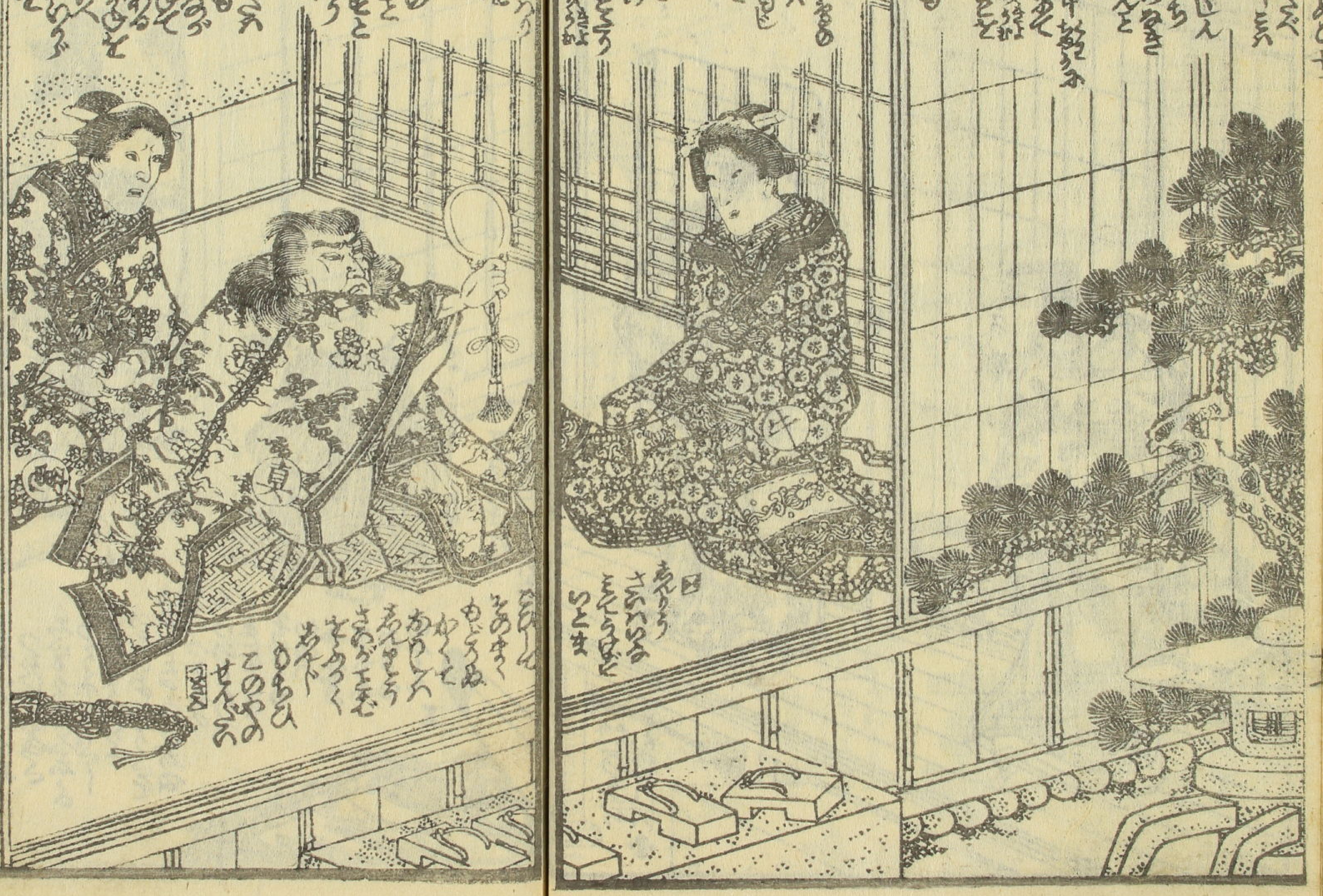
發兌

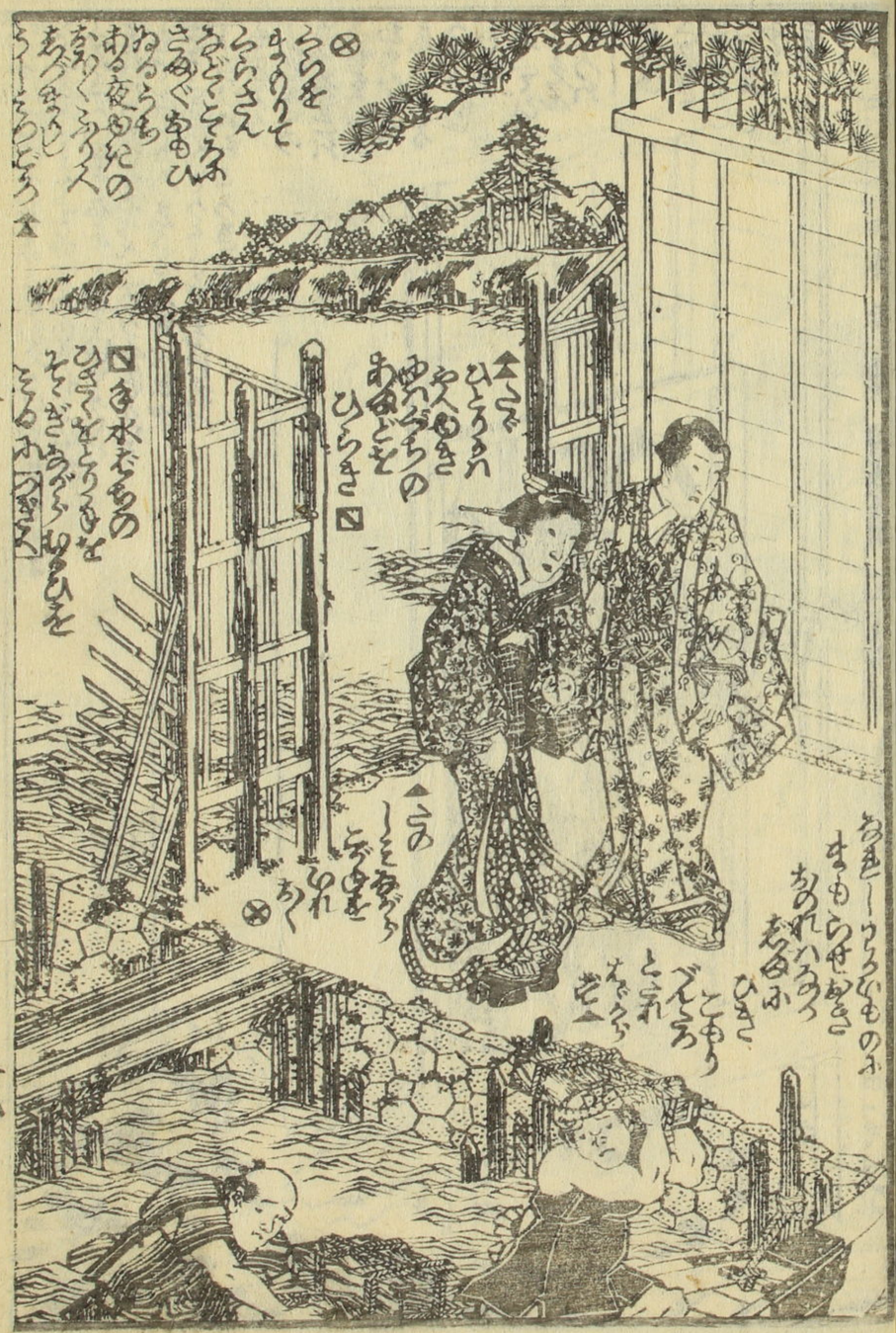


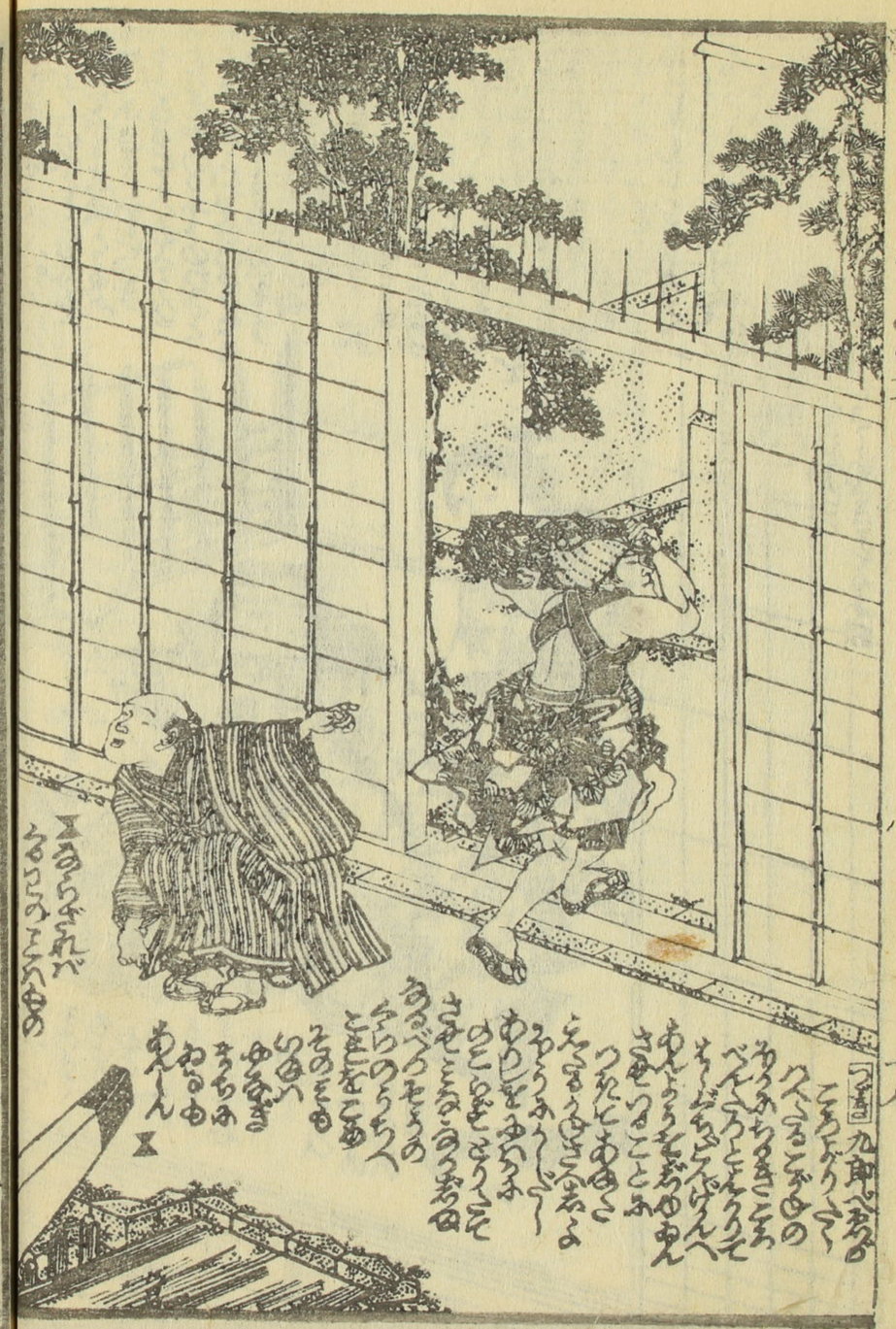


つる「ゑゝおまへすこしへてくへいさくゝのものはりわいへ
せぬトあくはなしも
つのりあつの……
と相者……
うつあつき……
まゆらいでもどれもせんを
いそろそろとしぜんに
おんまがたへゆめのうち大中斯ほつほか
とがのおもやみんとおもるるそ
火克金の凶夢は
金生ども山道のともどもを
つのそこ水中詣へ
まとぶとこるあとさるも
金生水
洗練うへ向あかき
あめおもうとこめひ
まさとれどつの不足山道の
ドそひとつおおまてきば
まゝの刀にかと……もとし
うつくさは……すぞ
あよわそふ……
と……
あつめ水選なもつきさ
あるとよぶ継名御めの
ところへとおあきてかどとう
うくすつ……凶夢……

へ吉画写……
ゆよくいへ……
まさ……
地ち……
やど……
おつ……
とお本年……
きく……
しやよ……「たいらの
あるこのおとがけて
ぶト……
どの……
ゆら……
ゐ……
つて……
なま……
まと……
ゑき……
どぶ……
きて……
あもしかも……
トゑ「……
さ……
こ……
まく……
まゞ……
あくどみ……







白縫物語

自第十八編　柳亭種員作
至二十五編　梅蝶楼國貞画

富寅閏七月より来卯正月迄ニ無相違出板

十八編　紅葉伊勢加田浦の漁夫潮助が往時のなりわひ白梅が姉お夕が身の上を聞て涙ふ下の巻ハ十七編の口画ハ高麗ふハ一ハ此冊子ふ一個の立者三笠山伊達五郎が二人の敵を討て高麗ふハ一ハ西瀧右膳が女翠平山赤玄之丞を暮惑うをハ紙幅ハ

十九編　妖白梅右膳が邪悪の工ふ能り玄之丞悪ゞ鳥ふ非命ふ果この話ハ

二十編　三笠山が能が宜敵の条ハ母親浅草が成行のハ

廿一編　伊達五郎母と妹の仇討ふ山田河内の業樹の夜五個の殺害ふ一ハ面白ハ

廿二編　北斗七星の神通ハ

廿三編　青柳春之助が智勇ハ

廿四編　伊達五郎を教ふ撮州須戸の駅草ふ鳥山豊後助が必死の尼難ハ

廿五編　三笠山伊達五郎怪力ふ雌雄を争ふ物語ハ

廿六編　龍川小次郎の巻末ハ

廿七編　説ハ下の巻ハ

廿八編　出板毎ふ御ひいきを願上奉つる

作者　種員伏稟

地本草紙問屋　通油町　藤岡屋慶次郎
浅草今戸町　柳亭　卜丁

廿二編上
柳谷文彦
外題曲亭馬琴

白縫譚

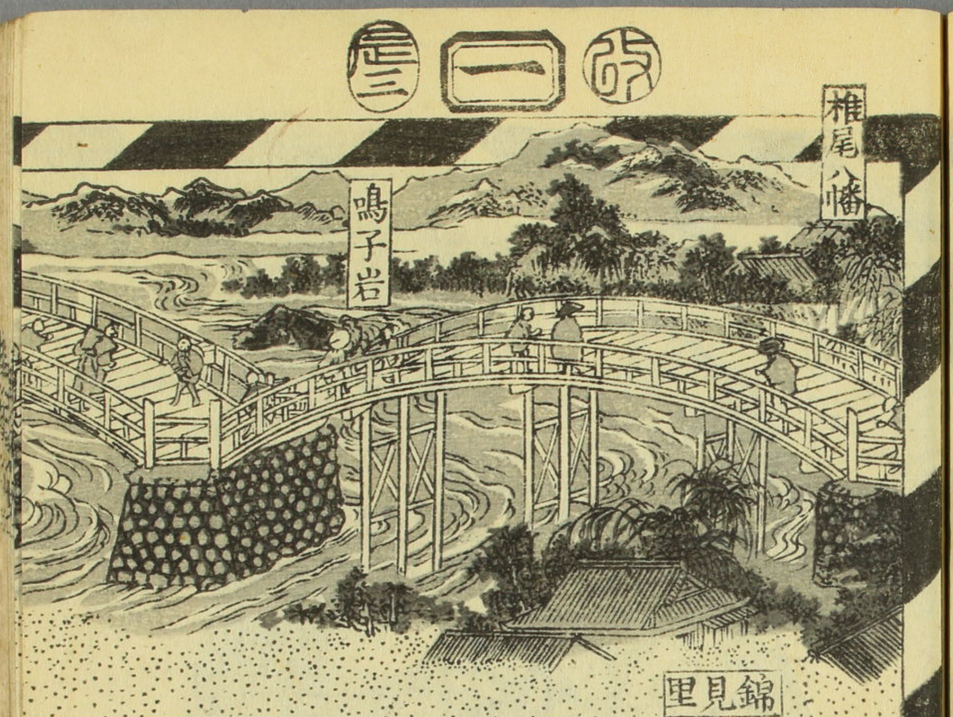
二十二篇

上集

種員作

國貞画

柳下壽梓

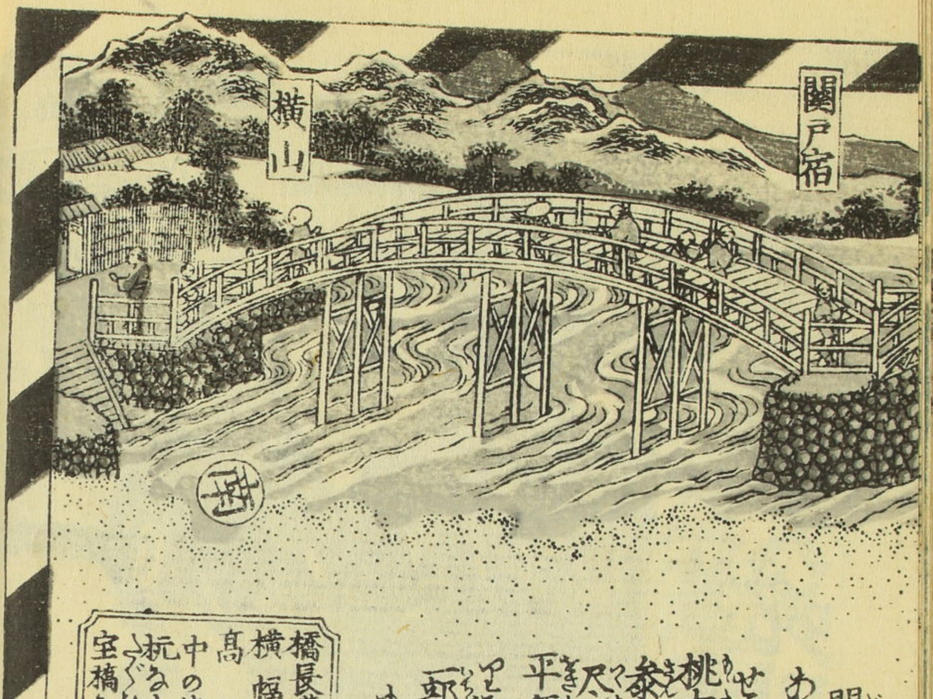


防州岩國錦帶橋圖

古昔わつさと発説時代の草紙に鼠の嫁入の祝儀物猿蟹合戦桃太郎花咲の爺加ちく山古切雀ゞ土産の葛籠軽趣向ゞ流行して花咲ゞ時一次もあるべき微細な條ゞ綴るべきつゝふ稗史の大人の覧さるゝ東西とゝろゝぬ太程ゞ拙著不知火ゞ錦嶽の天術傳授ゞ解蟹いろまと柿の種と握飯とをうつもせ也狸も撃欲腹鼓能樂と好いの大下代ゞ宮島の試合場い木船の乗ゞ大手柄慳貪爺の鰭九郎ゞ乗出くる上船い欲界の海ゞ沉舌切雀の報恩い口作ゞ談話ゞ出る雀と合鋏針の毒消重葛籠の中ゞ出見越入道河太郎さゞ古風な化物いるけれど乳母ゞ子と土蜘の力と添合

宇津ノ山越
三笠山
大蛇川
周防力士
大蛇川鱗太夫

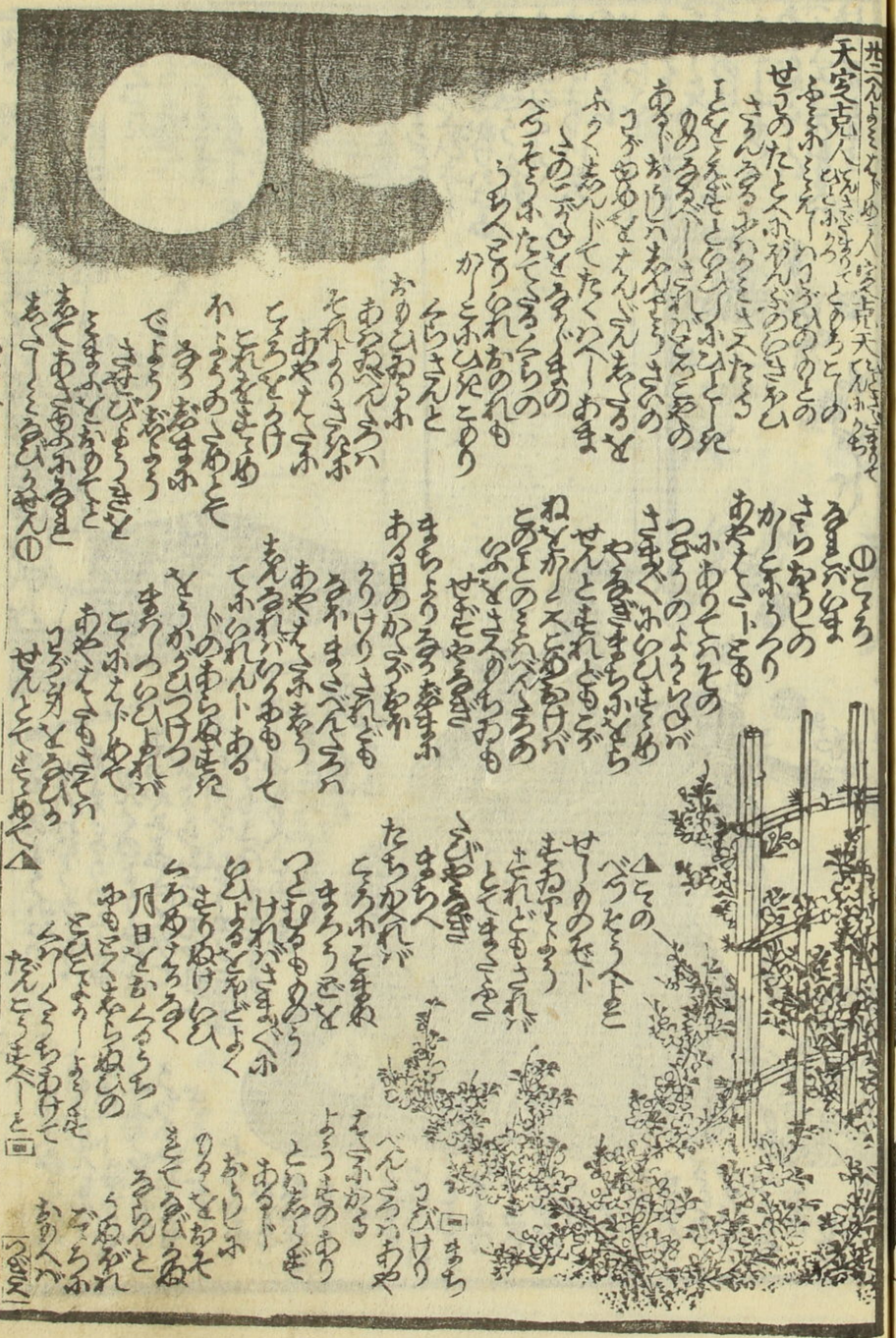
大内村
錦川
筑前力士
三笠山伊達五郎
豊国画

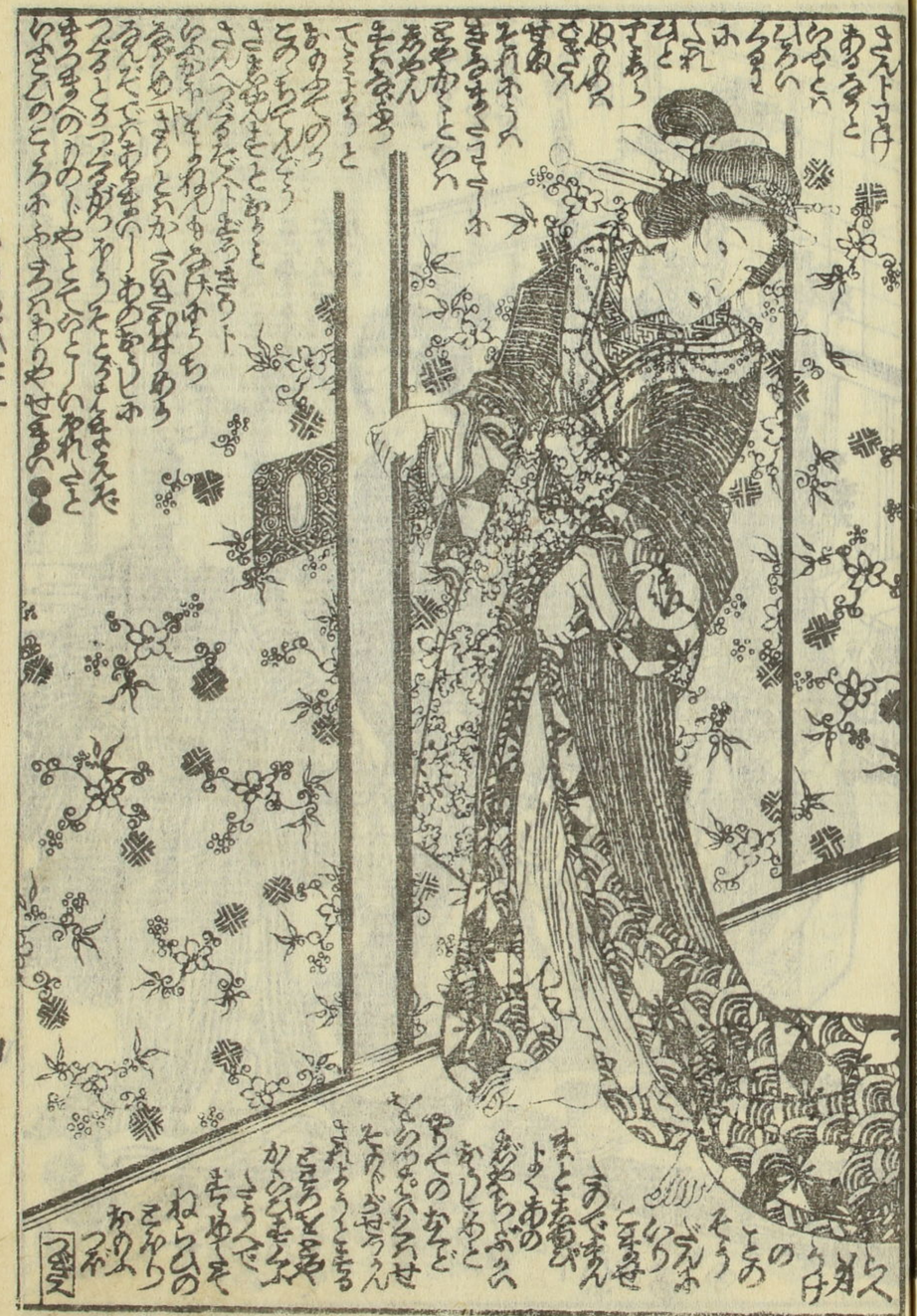


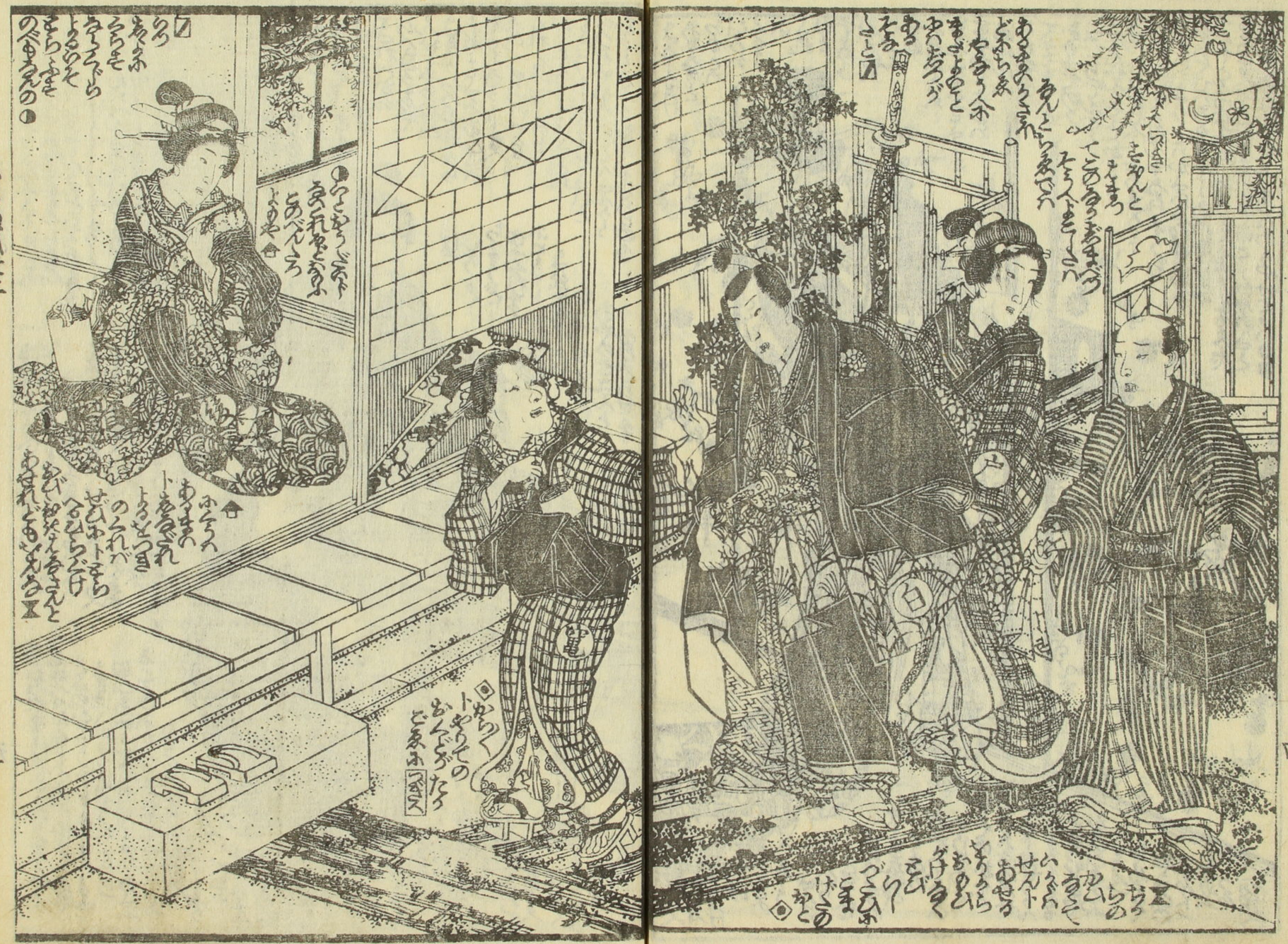
橋長サ百二十五間
横幅三間
高十三間
中の橋三ツハ折ゐし他ハ
ぐひ
宝橋

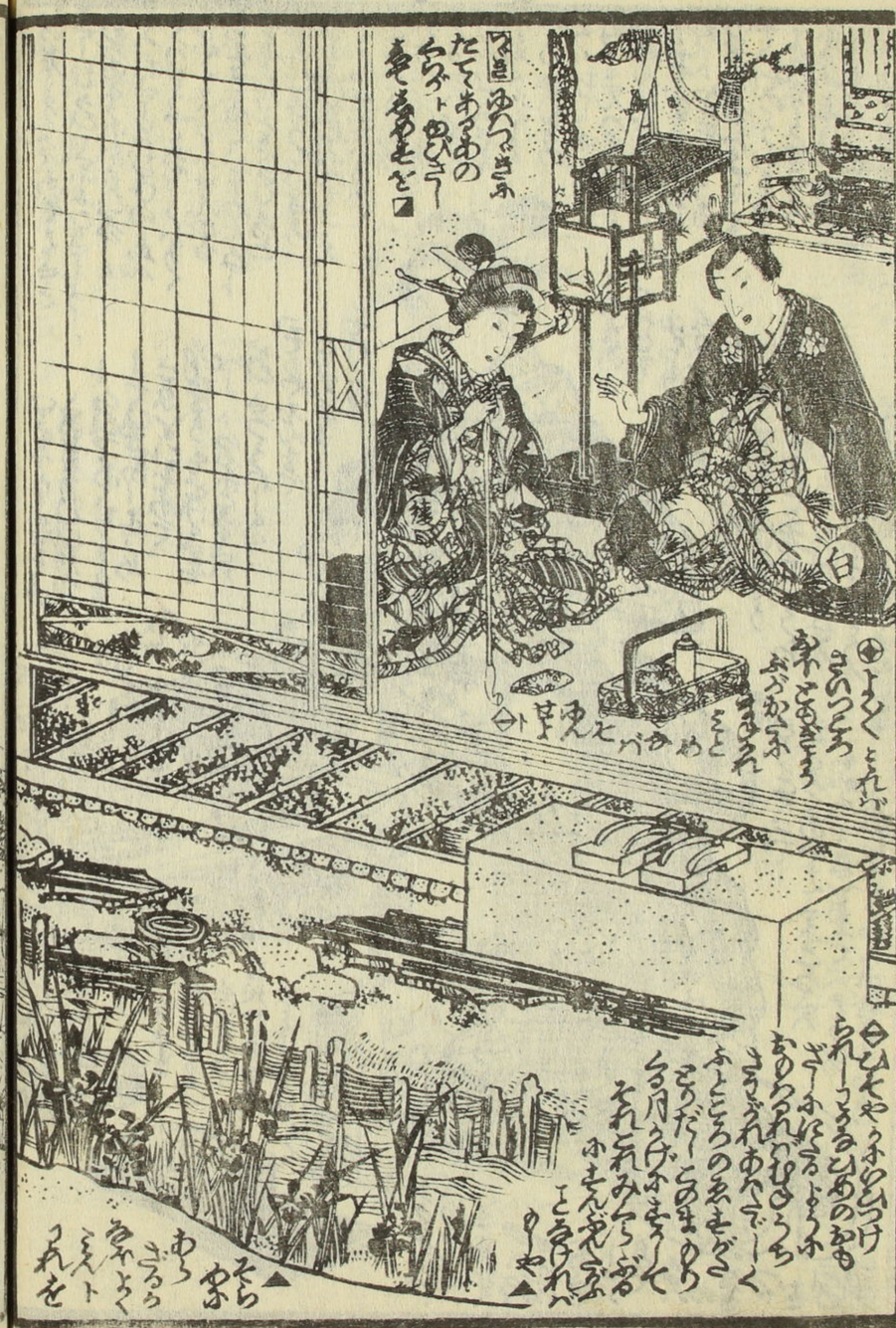
闘闘解と無理強牽ふ並んゐい昔噺ふ因も
あらひべ表紙ふ艶麗ふ柴苅と洗濯川とを通
せてとゆらかうゆら此編も妄談で山ふ黍團子
桃太郎の形容ふ似ふ帋石八郎武門ふ舊主八帰
黍の花美袴ねづをの嫁入それゆゆゐ忠ふ心を
尽ふる秋作照葉が婚禮と大友菊地両家の
平穏目出度一期榮るまで八鬼が島へ押渡船路よ
ひとゆ長かるべく總ハ勸善懲悪と旨と綴ふ
一部の大意願ハ是を覽さば只管善道ふ進さ
まゆゆと佳兒達合点欤と序の末文も
古昔の口調ふ入ふて
老實子述

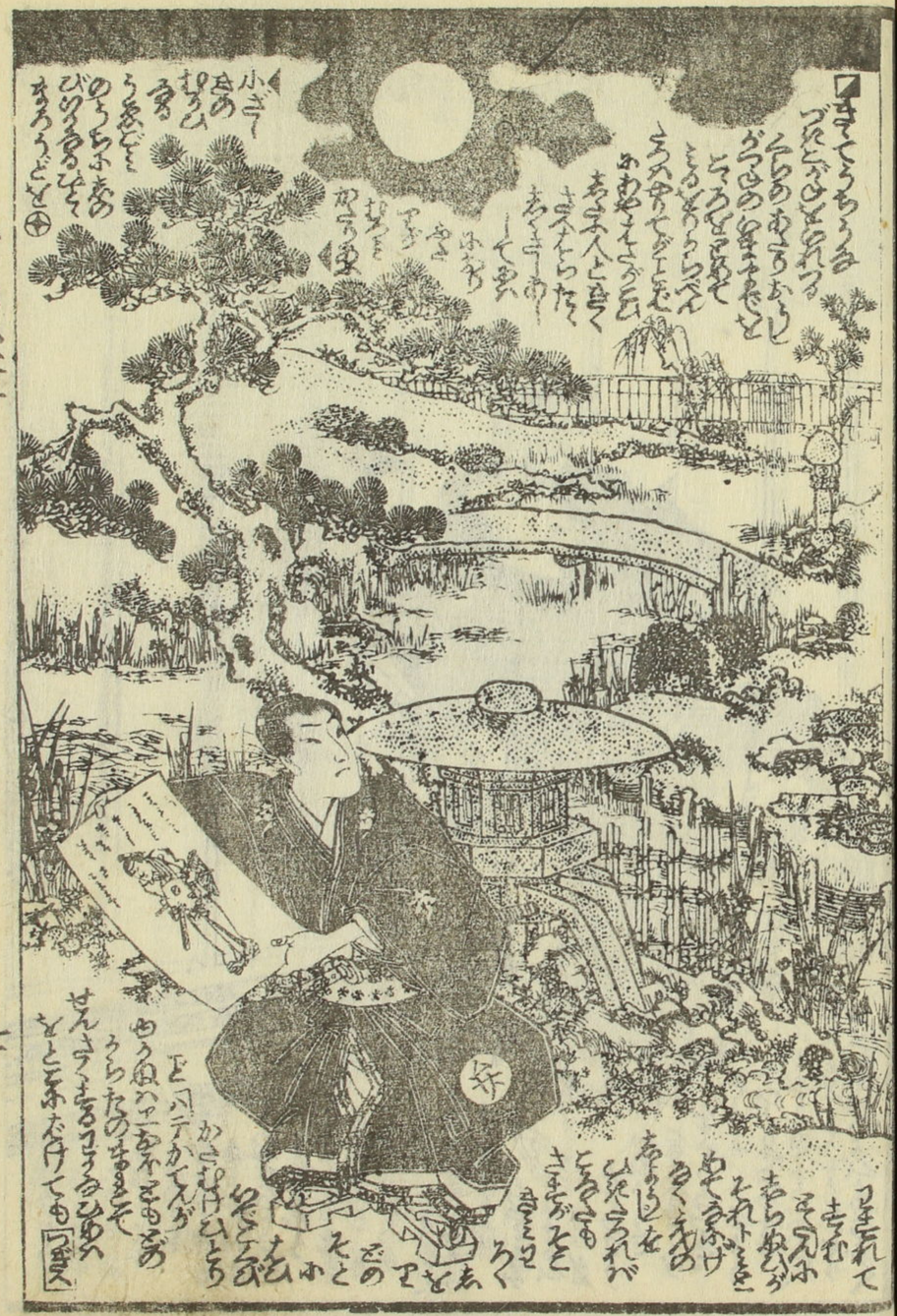
安政丙辰初春
柳下亭種員











白

赤

大蛇川勝手口

安政二年乙卯歳新著標目

假名 一休草紙 九編
[illegible]
當卯 歳初登 七編 柳下亭種員作 雄齋國輝畫
板元 泉堂

童謡妙々車 初編
[illegible]
同時出板 柳下亭種員作 香蝶樓國貞畫
板元 紅英堂

壽土臺生肌膏
[illegible]
製薬所 新吉原

奇功紙
[illegible]
賣弘所 二岡屋
小田原屋

地本草紙問屋
通油町 藤岡屋慶治郎
浅草今戸町 柳下亭

十

小物語

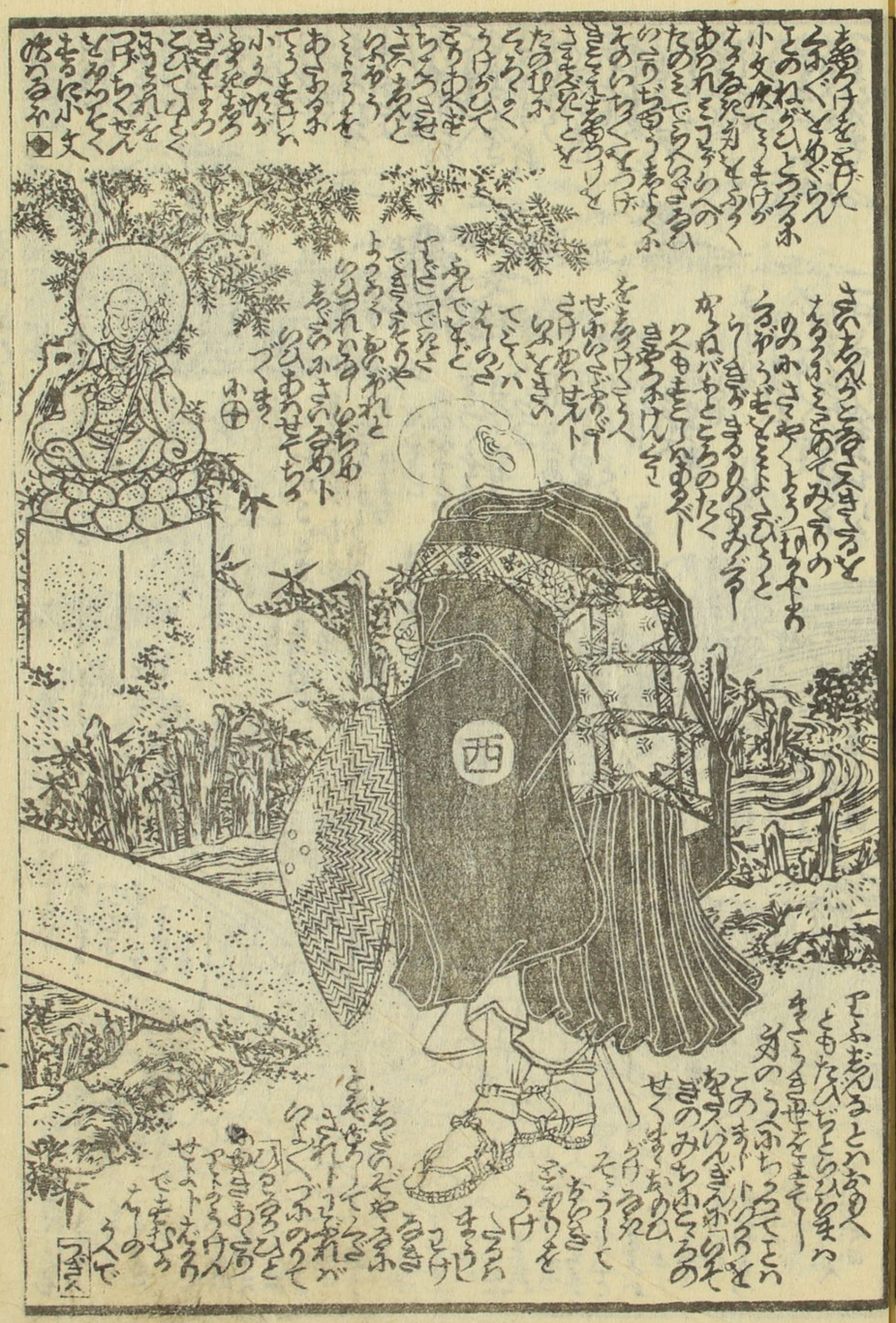
廿二編下

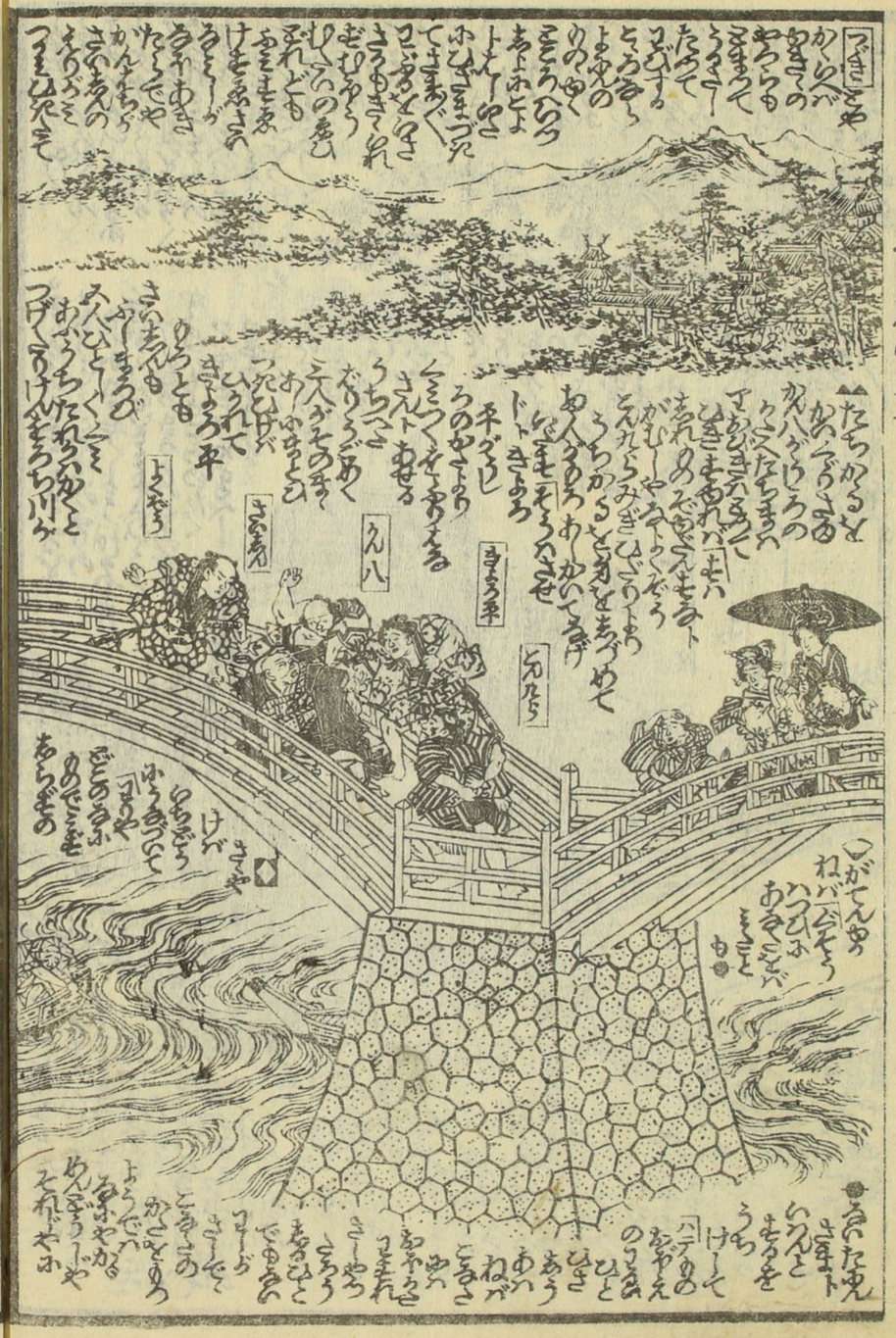
柱負作
国貞画

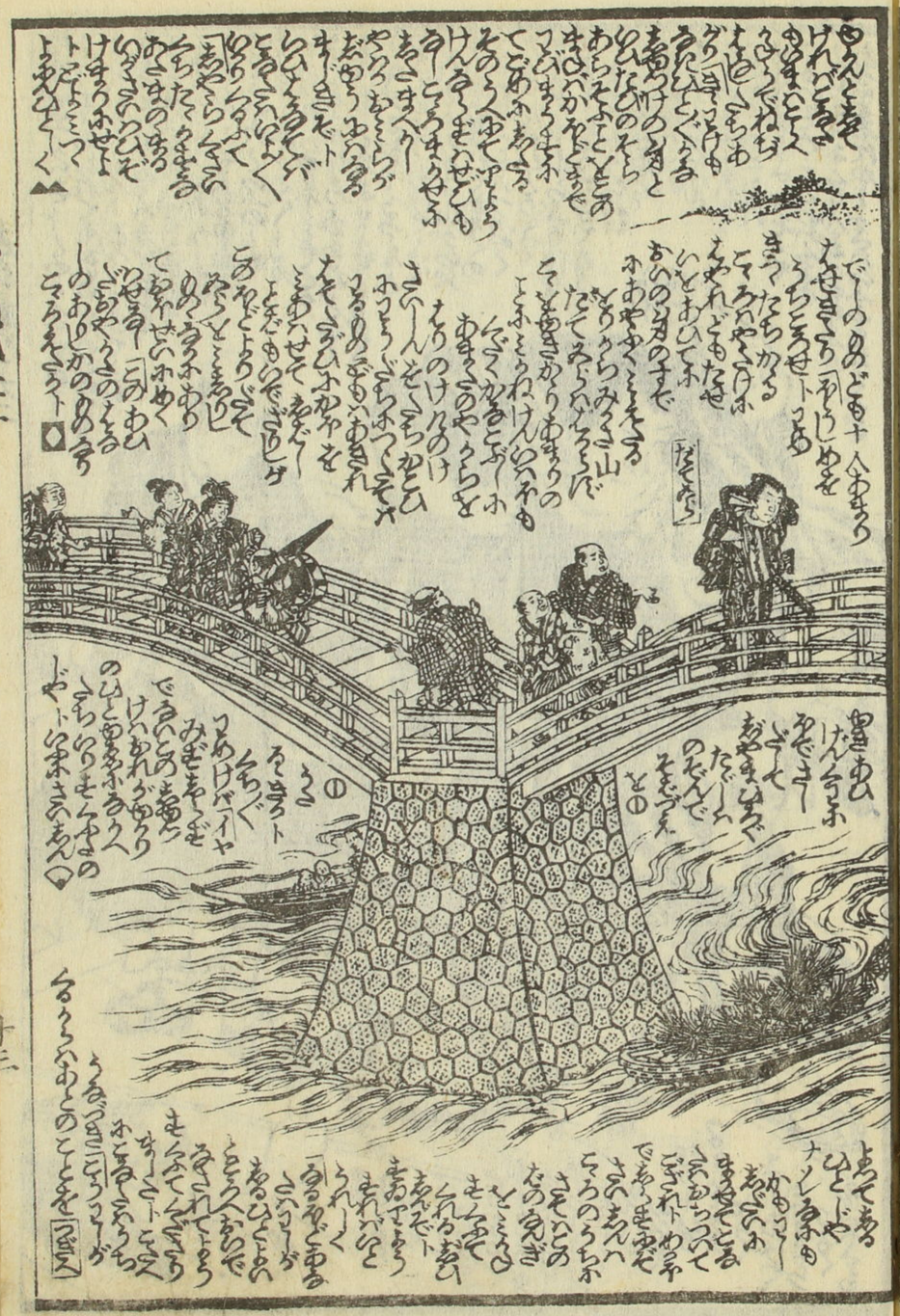
おとこ海
下集
国貞
画

三
四
潮助小文治
実を求めて出家と遂
西心と法号
八
潮

小

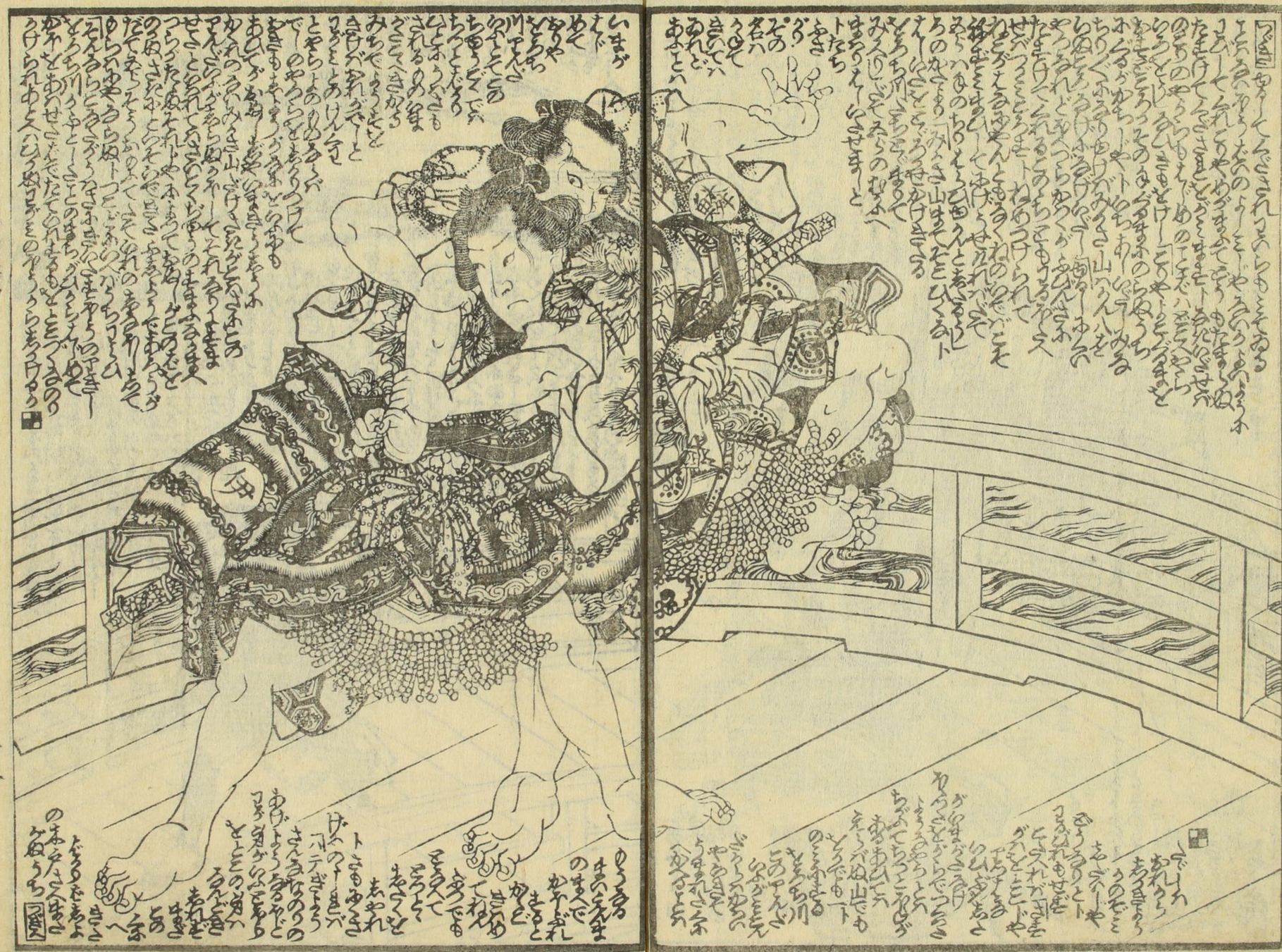

西



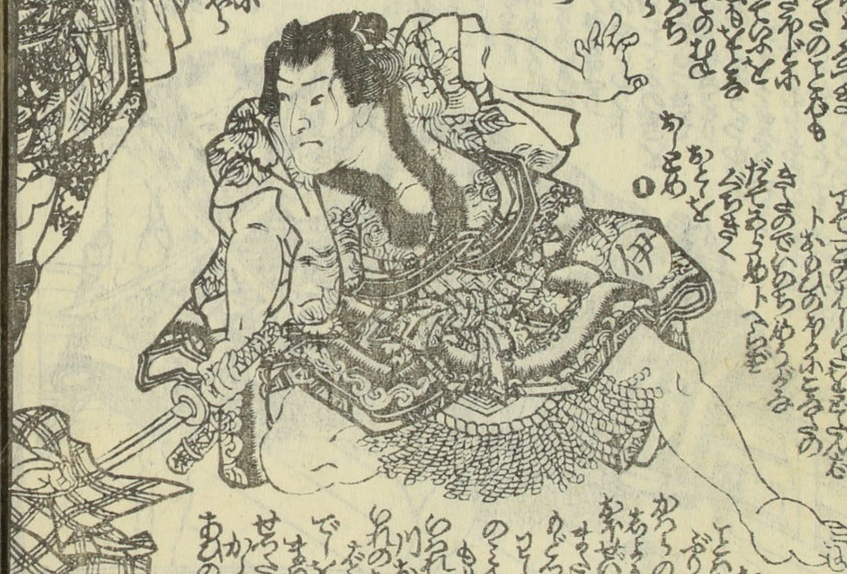


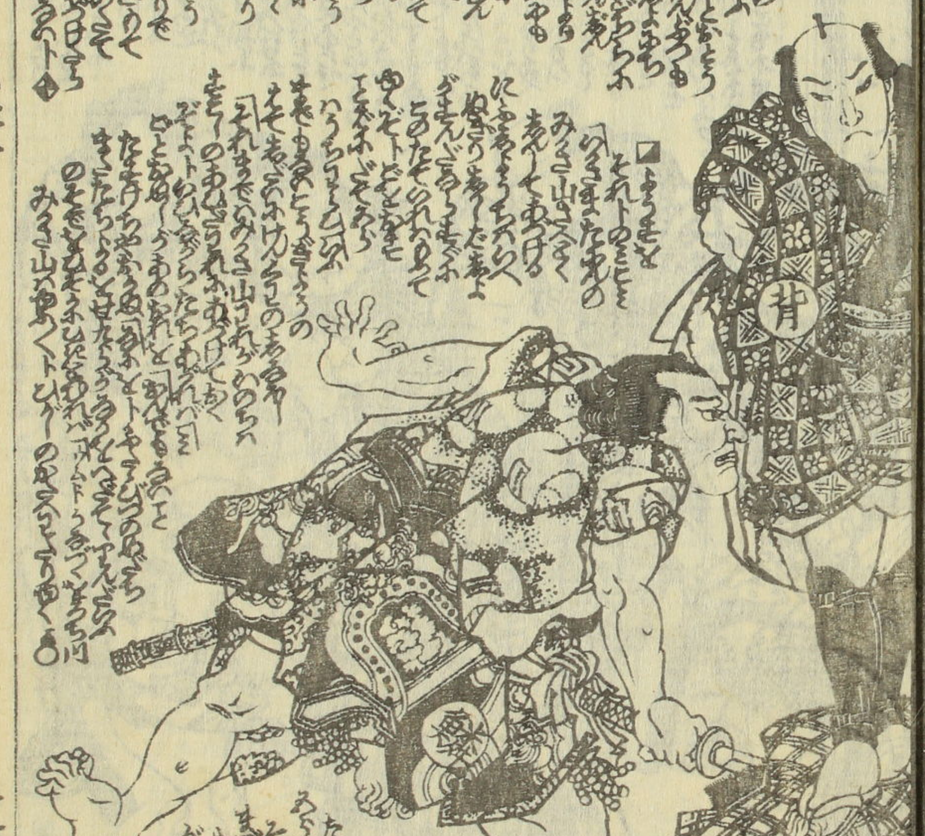
伊
西
神

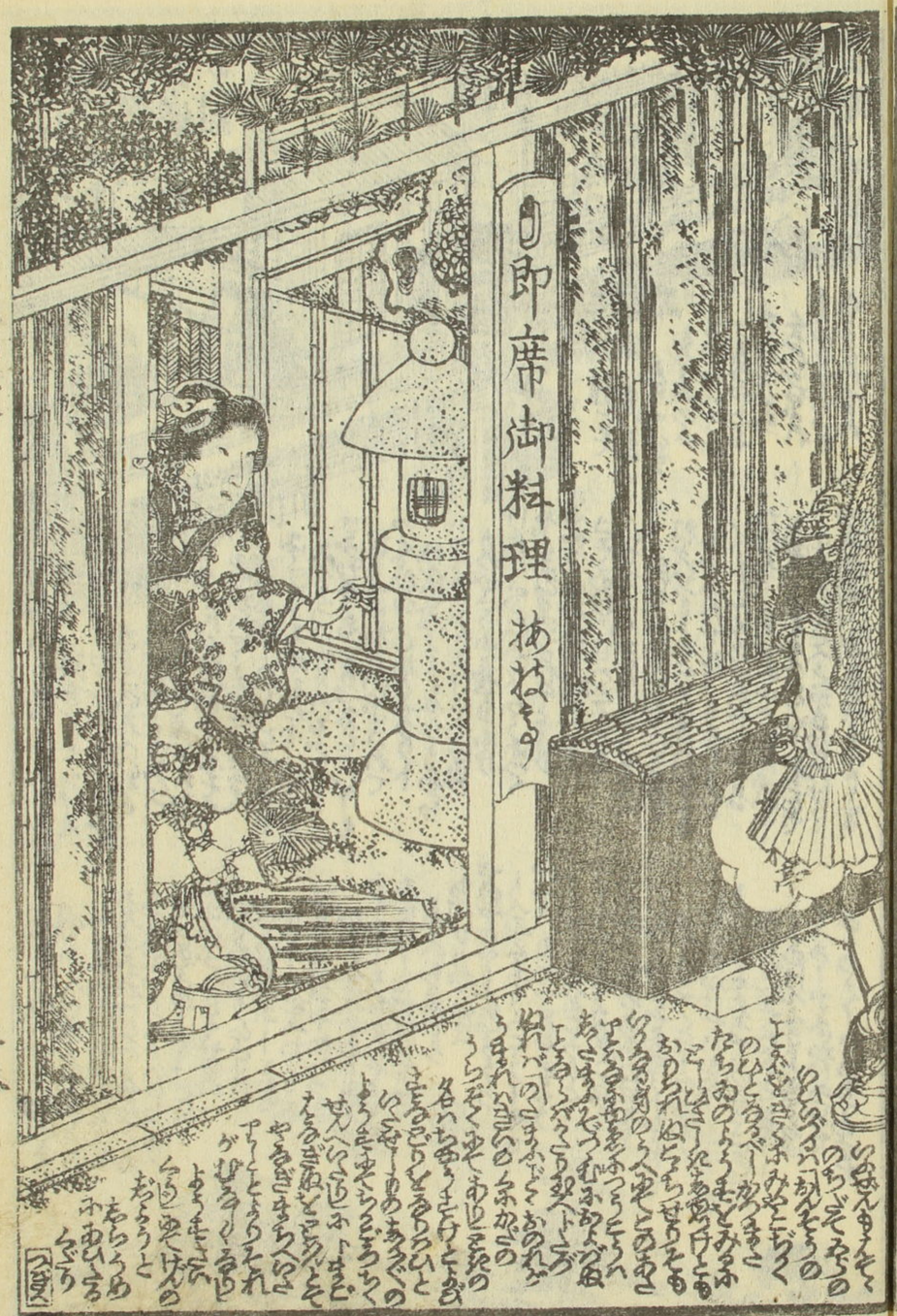
砂
井
紺



四






即席御料理 ねぎま

錦見里の旅店
五郎兵衛と西心と伊達
寄縁を語る
吸江山

錦帶橋東の橋詰
梅ケ枝橋
河原町
吸江山梅ケ枝橋河原町の錦帶橋の南の方ふ在

河原ホ寝る非人
両人が悪計を窺る

つぎき

白縫物語

自第十八編　柳下亭種員作
至二十五編　梅蝶楼國貞画

富寅閏七月より来卯正月迄　無相違出板

十八編　紀伊国加田浦の漁夫朝助が往時の恩人の身の上を聞く
下の巻　千七編の口画　高野山の一山焼亡の事
西瀧右膳が女房　山蔭玄之丞　長慶の恩人の話
廿一編　伊達五郎母と妹の仇討　山田河内の重籠の夜五個の怪事
廿二編　伊達五郎　撥くより撥州須戸の駅亭の鳥山豊後助が怨死の尸難　龍川小文治
廿三編　笠山伊達五郎　怪力ふ雄雄を争ふ物語
廿四編　青柳春助が賀を選ぶ
廿五編　巻末　敵下の巻　出板毎に高りとなれば
下の巻は余紙あらるれば　ふ出ふ
願ひ奉つる

地本草紙問屋　浅草今戸町　柳下亭種員作
浅草今戸町　藤岡屋慶次郎

志ぬ草

廿二篇

柳貞作

東京亜

柳下亭

春樹